

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第38週（9月19日～9月25日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 減少」

第38週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,140例であり、前週比22.3%減であった。定点あたり報告数の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ1.89、1.73、1.03、0.43、0.33である。

手足口病は前週比15%減の370例で、南河内3.81、大阪市西部2.80、大阪市南部2.56、三島2.41、中河内2.35であった。

感染性胃腸炎は4%減の340例で、中河内4.00、南河内2.19、北河内1.88である。

RSウイルス感染症は52%減の202例で、南河内2.56、堺市2.11、北河内1.12であった。

ヘルパンギーナは22%減の84例で、大阪市北部0.93、大阪市南部0.67、豊能0.61である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は12%増の65例で、大阪市南部0.78、泉州0.68、中河内0.65であった。

インフルエンザは167%増の8例で、定点あたり報告数は0.03である。

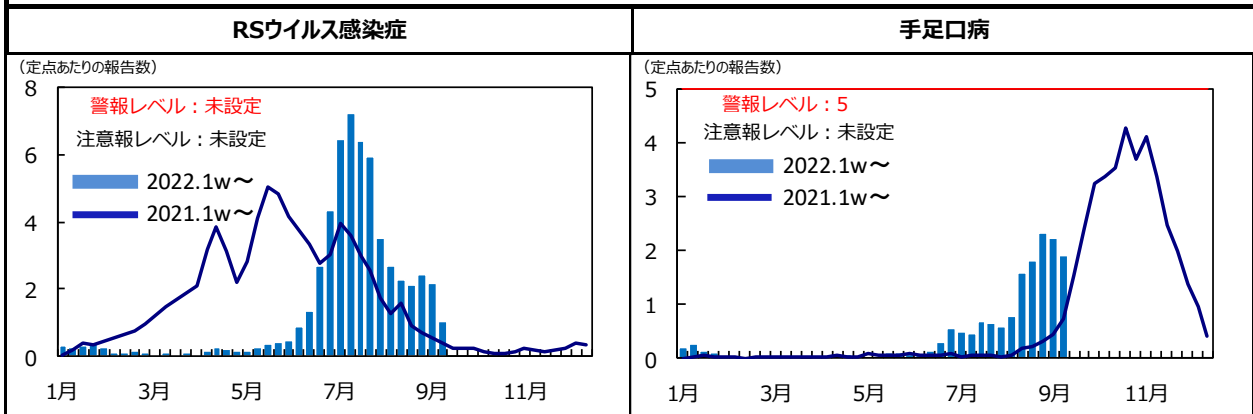


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第38週9月19日～9月25日）

第38週の順位	第37週の順位	感染症	2022年第38週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第38週の定点あたり報告数	2022年第38週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	手足口病	1.89	15%減	0.74	1歳_36%
2	3	感染性胃腸炎	1.73	4%減	2.17	1歳_17%
3	2	RSウイルス感染症	1.03	52%減	0.38	1歳未満_28%
4	4	ヘルパンギーナ	0.43	22%減	0.36	1歳_38%
5	5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.33	12%増	0.27	5歳_17%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.03	167%増	0.00	5歳,10-14歳_25%

突発性発疹について、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2022/23年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

第38週のコメント

～梅毒～ 大阪府における2022年の梅毒累計報告数は、現行の集計方法で過去最高となった。

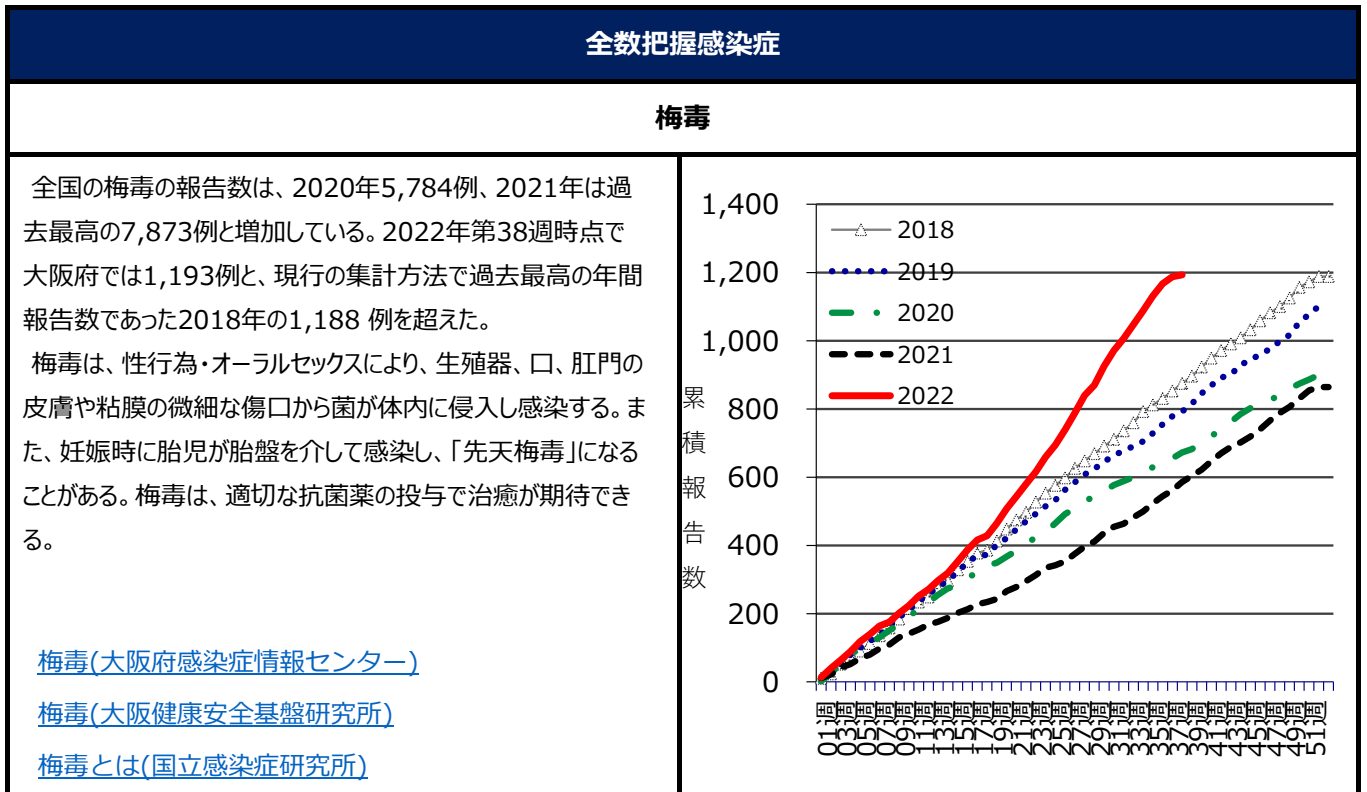


表2. 大阪府全数報告数（2022年 第38週9月19日～9月25日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内							大阪府	府内累積報告数
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4	1	1						2	141
4類感染症	デング熱	1							1		9
	レジオネラ症(肺炎型)	4	1				1		1	1	77
5類感染症	アメーバ赤痢	1		1							33
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5			1		2			2	99
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1								1	12
	梅毒	6	2	1			1			2	1193
	破傷風	2		1			1				3
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	29,630	2020年1月以降累計							2,081,167	
結核 (2022年7月分)	結核 新登録患者数：48名									(内 肺・喀痰塗抹陽性 20名)	
										(府内累積報告数 578名、内 肺・喀痰塗抹陽性 214名)	

(2022年9月27日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。](#)